



福井県勝山市 南 都志男

ふくいのエコ農業推進協議会委員

事例のポイント

- 兼業の家族内労働で 110a の自然農法水稻栽培実施
- 除草対策は揺動式除草機 1～2 回で対応
- 平成元年より有用微生物（EM）を活用して土づくりを行っている

## 1. はじめに

昭和 24 年父親が岡田茂吉師の提唱する自然農法に出会い始める。周囲の理解は皆無であったが 21 世紀の農業は人の健康を第一に考えた農業に成る時代の到来を信じて継続してきた。最近、我が家の収量の安定と EM 活用した家庭菜園実施者の地域での拡大や、毎年自宅で開催してきた自然農法体感セミナーや有機農業推進法の施行等に伴い地域の理解度は高まってきた。

## 2. 経営の概況

水田は一人で耕作している。生産調整の転作分は両親が自然農法で野菜の栽培を行い友人や知人に提供している。

## 3. 栽培圃場の概要

### 1) 圃場の立地と周囲の地形

勝山市は、恐竜の化石が多数出土することで有名な市である。特別豪雪地帯でもあり毎年屋根の雪下ろしを行っている。高齢化と過疎化が進み耕作放棄地も増えている市です。フォーブスの「Forbes.com 世界でもっとも綺麗な都市トップ 25」で 9 位に選ばれ、アジアでは 1 位。

毎年 4 月中旬に集落の周囲を全部、猪対策のために電気柵で囲う。山側に檻を仕掛け蕎麦の収穫まで対応している。

### 2) 圃場の課題と育土の方向

中山間地の基盤整備の為に切土と盛土した所の鋤床の問題はあるが、毎年少しずつ石や砂利を入れる等して機械作業が効率よくできるよう対処している。

自然農法栽培の年数の経過に伴いど壤が変わってきている。現在は EM ボカシと時々 EM で発酵させた牛糞堆肥を使用し土作りを行っている。



自宅からの晩秋の隣接市

## 4. 具体的な栽培技術

### 1) 耕起～作付けの準備

#### 【秋作業】

コンバインで収穫（稲ワラを全量還元）後、EM ボカシ、貝化石、EM 牛糞堆肥（使用しない年やほ場もある）を散布し EM 活性液を散布し耕起をロータリーで行い再度 EM 活性液を散布する。

### 【春作業】

EM活性液を散布し荒代掻きをドライブハローで行う。雑草の発芽を確認し田植えに合わせて代掻きを行う。

### 【使用資材】

- ① EMボカシⅡ型（自家製）
- ② EM活性液（自家製）
- ③ 貝化石
- ④ EM牛糞堆肥



### 2) 播種・育苗～定植

自家採種した種籾を風選し使用する。塩水選は自然塩を使用し卵が浮く状態の濃度で行う。その後EM倍希液に浸け、催芽機にかけ播種する。（ミノルのポット使用）播種後はほ場に直接並べラブリシートとワリフをベタガケにして育苗を30日から35日間行い田植えする。

### 【育苗培土】

育苗培土は畑の土、赤土、EMボカシ、EMセラミックス、クンタンにEM活性液をかけ攪拌し屋外に積んで発酵させている。雪降り前に納屋に移動させEM活性液をかけ再発酵を促す。もう一度EM活性液を散布し発酵の確認を行う。4月中旬にふるいにかけて使用する。

水田の育苗期間中に生育状況を見ながら2回から3回EM1号の希液を散布する。

### 3) 播種・定植後の初期の管理

植え付けは50株/坪で行う。揺動式除草機が活用出来るように浅水管理を行い活着を促進さす。

### 4) 雑草対策

田植え後にEMペレットボカシを散布する。雑草の発芽を確認して除草機をかける。

### 5) 中間～後期の管理

特に中間の水管理は行わず。減水した分だけ入水し中干しは行っていない。柔らかいほ場は溝切りを行い秋の排水が良くなるよう準備する。

### 6) 病虫害の管理と対策

イネミズゾウムシの対策としてEM活性液を散布する。

### 7) 収穫作業の手順と収穫後の調整・出荷基準等

出来るだけほ場に於いて稔らすように心がけている。

## 5. 今後の課題や取り組みたいこと

平成22年8月に地元の有機JAS農家グループ「かっちまゆうきの会」が、福井県のモデル集団育成支援を受けペレット成形機を導入した。米糠やEMボカシ、屑大豆等を加水せずにペレットに成形していく機械なのでペレット肥料の購入費軽減や作業効率を目指している。平成22年度から始まったEM研究所の技術提携農家として認定を戴き地域のEMを活用した自然農法の普及に努めて行きたい。



導入したペレット成形機